

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年4月1日発行（毎月一回発行）第699号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

「追思考」の歩み 朝岡 勝

本・批評と紹介

遠藤 徹 著

〈尊びの愛〉としてのアガペー 山本芳久

J.S.スポング 著／富田正樹 訳

信じない人のためのイエス入門
関田寛雄

J.C.ヘボン、S.R.ブラウン、奥野昌綱 著／
久米三千雄 編・校注

元始に言霊あり 蓮見和男

小川修パウロ書簡講義録刊行会 編

小川修パウロ書簡講義録9

前期論文集 鈴木 浩

小高 毅 著

霊性神学入門 阿部仲麻呂

關岡一成 著

海老名弾正 山口陽一

A.E.マクグラス 著／鈴木 浩 訳

ルターの十字架の神学 加藤喜之

R.ポーレン 著／加藤常昭 訳

神が美しくなられるために 小泉 健

上智大学キリスト教文化研究所 編

聖書の世界を発掘する 杉本智俊

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

書店案内



4 APRIL
2016

私のごす。へるくるにくる

沢知恵著 私的音楽年代記!



あらゆる境界線をまたぎ越し、愛を歌い、歴史を歌う歌手・沢知恵が、日米韓のあいだに生きつつ聴いてきた・歌ってきた「私にとってのごすべる」とは。Let it be から AKB 48 まで、時代と自分史を映す歌の数々についての思いを綴ったユニークなエッセイ。巻末にフォーク歌手／作家中川五郎との特別対談を収録。

◆46判変型・本体1500円



使徒行伝 下巻

荒井 献著 ついに上・中・下巻、完結

【現代新約注解全書】

3月25日

邦人の手になる最高水準の行伝注解がついに完結。下巻は18章23節から最後まで。なお巻末には補論として「最後のパウロ——使徒行伝28章30—31節に寄せて」および緒論となる「概説使徒行伝」を収める。

◆A5判・本体9000円

既刊

使徒行伝 上巻

◆本体6000円

使徒行伝 中巻

◆本体9000円

荒井 献著

人が神にならないために

説教集

青野太潮著

「十字架につけられ給ひしままなるキリスト」

3月下旬

かつてコイノニア社から刊行されていた名著2点を、版元休業のため、復刊することとなりました。

◆四六判・本体各2000円

N・T・ライトの主著、ついに邦訳開始 新約聖書と神の民 上巻

キリスト教の起源と神の問題 1

N・T・ライト著／山口希生訳

現在全6巻の構想で進めている「キリスト教の起源と神の問題」の第1巻。上巻は、聖書学方法論を徹底的に再検討した後、新約聖書のユダヤ教的前提を詳述し、原始キリスト教理解の導入をはかる。

◆A5判・本体6400円

訳者を招いての講演会

「N.T.ライトによる
ローマ9—11章の講解」
4月9日(土)13時～15時
於日本聖書神学校202号室
会費無料





出会い・本・人 「追思考」の歩み——朝岡 勝

書物を通して与えられるかけがえのない出会いがあります。一冊の書物、時には数行の文章を通して、それを著した著者の思想や人柄、生き様に触れるような人格的な出会いの経験と言ってもよいかも知れません。自らのささやかな歩みを振り返っても、「この言葉に出会わなかったら、今の自分はないのではないか」と思えるような、書物を通しての人格との出会いの経験がいくつもありました。

そんなお一人が宮田光雄先生の書物です。最初に手にした本は岩波ブックレットの一つであったと記憶していますが、その文章に触れて「ああ、この言葉はちゃんと聞かなければならない言葉だ」という思いになり、以来、先生の書かれた書物を次々に手にし、講演会に出かけ、講演の録音テープを取り寄せたりもしてきました。一面識もないただの読者であるのに、先生のご自宅に図々しく拙著を送らせていただいた時には丁寧なお返事をくださり、大いに感激したことを覚えています。

宮田先生の長年の著述活動の集大成ともいべきものが、二〇〇六年春から刊行が始まった『宮田光雄思想史論集』全7巻＋別巻（創文社）でしょう。途中で東日本大震災が起こるなど大きな出来事がありつつも、刊行は順調に進み、後は最終巻（第5巻）を残すのみとなっています。値の張る本ですが、新しい巻が出る

たびに買い求めてコツコツ読み進めて来ました。先生のご専門のドイツ政治思想史をはじめとして、カール・バルトの神学と実践、平和思想史研究、日本におけるキリスト教思想史研究など、広範囲かつ綿密な考証・思索に裏付けられた論考を読む経験は、自身自身の足りなさを痛感するとともに、それでも何とかそれについていくことで「追思考」の訓練を受けているような喜びを味わうものでもあります。

私は伝道者になるまで書物とは縁遠い生活をしてきました。神学校で本を読むことの大切さを教えられたものの、自覚的に書物を通して学ぶことを始めたのは教会に遣わされてからのことでした。若い時にまじめに勉強していればよかった、学ぶことの大切さに気づくのが遅かったという思いがなかったわけではありませんが、書物を通しての宮田先生との出会いを通して、「抽象や思弁に逃げず事柄をリアルに考えること。そこに生きる生身の人間を見つめること、究極から一步手前の真剣さで生きること、希望とユーモアを忘れないこと」を教えられ、暗い時代の中でも喜びの光のもとに、「追思考」の歩みを続けていきたいと願っています。

（あさおか・まさる 日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会牧師）

キリスト教の「愛」を捉えなおす
遠藤 徹著

〈尊びの愛〉としてのアガペー



山本芳久

「あなた方は敵を尊び愛し（アガバオー）なさい」。イエスの有名な言葉に対する著者のこの訳文を正確に理解することができれば、『尊びの愛』としてのアガペー』の中で著者が伝えようとしたことの本質を正確に理解することができたと言いつても間違いではないだろう。

キリスト教は「愛の宗教」と言われる。この場合の「愛」とは、古代ギリシア語の「アガペー」の翻訳だ。冒頭のイエスの言葉を「愛」という語を用いて訳すと、「あなた方は敵を愛しなさい」となる。この「愛しなさい」を、「好きになれ」とか「親しめ」という意味に解すると、「絶対に履行不能な無意味な命令」（二五頁）になってしまふ。好きかどうかということは、自然発生的な感情の流れによることであって、命令されてできることではないからだ。

他方、「あなた方は敵を尊び愛しなさい」と訳せばニュアンスは随分変わる。「尊ぶ」という言葉には、もともと「愛す」という言葉にあるような、癒着的な関係がない」（四七頁）からである。我々は、主義主張が異なっていたり利害関係が対立

していて敵対関係にある者であっても、相手の人格をそれぞれとして尊び、その立場を尊重して接することができる。また、敵が人間として適切ではない状態に立ち至ってしまった場合に、その人のことを好きになることはできないとしても、その人が人間であるかぎり元来有しているはずのより人間らしい在り方へと立ち戻り成熟していく可能性を信じ、相手を見捨てずに尊びの念を持って接し続けていくことはできる。「愛す」は敵対関係——これはもちろん両極に遠ざかる関係である——にある者に全く馴染まないのに対して、「尊ぶ」は敵対関係にある者の中にも敢えて入り込んで行く可能性がある」（四七頁）のだ。

時代を越れば、キリシタン時代の宣教師は、「カリタス」（アガペー）のラテン語訳を「愛」と訳すことはせずに、「御大切」と訳した。「愛」という日本語には、「欲望にとらわれて執着すること」を意味する「愛著」というようなネガティブなニュアンスがつきまといいたからだ。

著者は、「大切」という訳の優れた点を認めつつも、「尊び」

という新たな訳語を提案する。「大切」という語の場合には、「私にとって大切だ」というように、「必ず或る主体にとって大切なのであり、人格や物そのものが持っている性質ではなく、主体との関係で当の人格や物に存在するようになる性質」（四八頁）が問題になっている。他方、「尊い」は或る人格ないし物そのものにおいて成立する性格（同）という側面が強く、神と人間、そして人間同士が互いに相手をそれ自体としてかけがえないものと見なし交流する側面を強調するのにより適切だからだ。あらゆる「尊び」には愛が含まれているはずだから、「尊び」だけでも充分だが、「尊び」だけだと「愛」という語に含まれている「優しさ」というニュアンスを伝えきれず、「和らいだ柔らかい気持ち」（五六頁）を表現しきれない可能性がある。あるので、「尊びの愛」と訳すというのが著者の提案だ。この提案が訳語としてどこまで受容されていくかは未知数だが、キリスト教的な愛の内実を日本語で今後考察していくさいに基盤

となる極めて示唆的な観点を提示したものと評価できる。

本書においては、ウォーフィールドによる先行研究に対する詳細で批判的な分析や、キッテル『新約聖書神学辞典』における「アガペー」「エロース」「フィリア」（いずれも「愛」を意味するギリシア語）などの項目の訳文が提示されるなど、読者各人が独自の研究を進めていくための基礎的な資料も豊かに提供されている。また著作の後半では、聖書の様々な物語を取り上げながら、「尊びの愛」と訳すからこそ見えてくる聖書の真意が分かりやすく分析されている。日本語でキリスト教的な「愛」の本質を探究していくための必読書の一つと言つて間違いない。

（やまもと・よしひさ）東京大学大学院総合文化研究科准教授

（A5判・三六四頁・本体三三〇〇円＋税・教文館）

死者の復活 神学的・科学的論考集

神学と科学が想定する
終末における復活の実態とは



T・ピーターズ／R・J・ラッセル／M・ヴェルカー 編 小河陽記
キリスト教信仰の根幹である「死者の復活」。その実現の可能性と想定される実態を、聖書学、宇宙物理学など、多彩な学問領域の研究者18名が考究。
A5判上製・442頁・6048円

新約聖書解釈の手引き



浅野淳博／伊東寿泰／須藤伊知郎／辻学／中野実
廣石望／前川裕／村山由美
聖書を読む方法を初学者向けに概説し、その方法で聖書を読むと「何がわかるか」を紹介する。
A5判上製・338頁・3456円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

有神論的キリスト教への徹底批判
J・S・スポング著
富田正樹訳

信じない人のためのイエス入門 宗教を超えて



関田寛雄

本書の趣旨を一言で言い表わすとすれば、「有神論的キリスト教の終りを告げる」ということであろう。著者は米国聖公会の牧師として、また主教として四十五年間働いた方であるが、現代アメリカ・キリスト教会の保守性、特に聖書の直解主義とドグマティズムへの鋭い批判を本書において展開している。

本書は大きく三部に分かれ、「第一部 人間イエスを神話から切り離す」では一章にわたって今日の聖書批評学の成果を踏まえて、福音書におけるイエスの誕生から復活、昇天に至るまでの叙述を精細に且つラディカルに描写する。「イエスから超自然的な奇跡や、信条による制定の言葉や、古代の神話といった膜をはがそうとさせる」著者の動機は、一は誠実なキリスト者でありたいと願うことと、二は自分が「今やキリスト教の時代の終わりを生きている」という危機の認識である。そして結論的に著者は言う。イエスの生涯にまつわる「物語の詳細の全ては、ナザレのイエスという一人の人間の中に神が存在している」と信じるに至った人びとの共同体によって作られた」（一七〇頁）ものであると。

「第一部 イエスの本来の姿」においては七章にわたってイエス伝承の形成が詳しく分析されている。その「口頭伝承」形成の「座」を著者は専らシナゴグに求める。シナゴグにおけるヘブライ語聖書（著者は意図的に「旧約聖書」という語を用いない）の文脈の中でイエス解釈が進められ、しかもシナゴグの典礼暦の流れ（二四三頁）が、マルコをはじめマタイ、ルカ福音書の構成を規定していると著者は主張し、イエスを何よりもユダヤ人として描く所に著者の意図がある。即ち「新しい過越しとして」のイエス、「ヨム・キツプル」（大贖罪日）の目的を満たすイエス、「人の子」としてのイエスはエゼキエルとダニエルから終末論的にイメージされ、第二イザヤの「主の僕」の成就と解されたイエスが描かれる。マルコ以前にはこのような「レンズ」（二一九頁）を通してイエス伝承が形成されたのである。シナゴグという「生活の座」でイエスはユダヤ的メシアのイメージに即して解釈され、しかもその典礼暦に従って編集され、一年という日程を枠として共観福音書へと成長して行ったというのである。

「第三部 信じたい人たちのためのイエス」においてはやはり七章にわたってイエスの実像、少なくとも福音書の一〇〜一五%の「事実」の確認と共にその今日的意味が問われる。先ずは「イエスは本当に生きていた」。その出身は否定的なイメージのつきまとうナザレである。更にイエスは洗礼者ヨハネから「罪のゆるし」の洗礼を受けた。そしてイエスは処刑されたのである。この三つは「事実」という他ない。付言すれば回心後のパウロはペトロと主の兄弟ヤコブに会い（ガラテヤ一・一八―一九）、歴史のイエスの「事実」を知ったであろう。ここで強調されるのは、超自然的な力であり信賞必罰を行うような神は存在しないし、そのような神を擁護する有神論の時代は去ったということである。ボンヘッファーの言う「非宗教的キリスト教」（三四二頁）こそ今日のキリスト教の進むべき方向である。「キリスト者になるということは宗教的人間になるということではない。……人間らしい人間になることである」（同頁）。それは

イエスの中に溢れていた愛に触発され、そこに「神」を見出し、それに促されて自由と愛に生きることである。
最後に、著者は語る。「私は神へと至る道を信じている。私はきわめて人間らしいイエスにおいてその神と出会ったのである。シャローム」と。

巻末の「解説者」の言うように、「本書は挑発的な書物である」。そこには極めてラディカルなキリスト教批判が述べられている。ある人にとっては戸惑いを感じるかも知れない。しかしここには大切な建設的批判が述べられていると評者は見る。今日のキリスト教会及びキリスト教主義学校が社会を支配する資本主義の構造悪に取り組みことなく体制順応に甘んじている状況に向けての、貴重な警告と評価できるであろう。

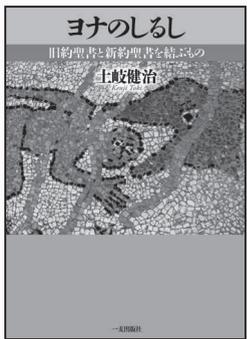
（せきた・ひろお）日本基督教団神奈川教区巡回牧師
（A5判・四〇〇頁・本体三七〇〇円＋税・新教出版社）



ヨナのしるし

旧約聖書と新約聖書を結ぶもの

土岐健治
Kenji Toki



ヨナ書は、
先行する旧約聖書諸文書の
パロディーである！
その特徴の一つは
「まじめふざけ」。
新約聖書の重要な場面で、
なぜヨナは登場するのか。

四六判
定価【本体2,400＋税】円
ISBN978-4-86325-077-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

新しい感動をもって、御言葉が迫ってくる
J・C・ヘボン、S・R・ブラウン、奥野昌綱著
久米三千雄編・校注

新約聖書 約翰傳 全〈現代版〉

元始に言霊あり
禁教下の和訳聖書 ヨハネ伝



蓮見和男

明治も始まるうとするころ、聖書の中でまず訳されたのは、このヨハネ伝であります。伝道・宣教と言っても、もとは聖書であります。説教もいわば、聖書の説き明かしであります。してみれば、すべての宣教の源には聖書があると言っても過言ではないでしょう。そのため、まだキリシタン禁制の高札の立っていたころ、すでに聖書を、その中でまずヨハネ福音書を翻訳して出したのが、ここにある宣教師ヘボン、ブラウン、それに奥野昌綱であります。おそらくヘボン、ブラウンはギリシア語の解釈にあたり、奥野はその日本語訳の吟味にあたったのではないのでしょうか。日米のよいパートナーシップと言うことができましょう。

私が茅ヶ崎で伝道していたころ、今からもう六十年も前になりますが、明治生まれの高齢の信徒がいて、その人は秋田の出で、若いころ、おそらく二十代のころでしょう、秋田の本屋さんで「約翰傳」というのを見た、それがキリスト教にふれ

といふものあり。かれは 證のため ひかりにつきて あかしをたて みなかれによりて 信ずるためにきたれり」(一章一―七節)。

確かに古い文章ですが、口語訳では、「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた」(一四節)と続きます。しかし、本書付録III「ヘボン訳ヨハネ福音書(ローマ字)」によれば、「それ、ことばは ひとになりて、めぐみとまことをみてて われらのうちにやどり、われらそのたつときをみるに、ちちの ひとりうみたまいしもの たつときがごとし」であります。

これはほんの一節の紹介ですが、もし現代のわたしたちがこれの全巻をひもけば、新しい感動をもって、御言葉が迫ってくるのを覚えるでしょう。付録として、当時の年表や、本の表

る最初であったということですが。そのころは、これを「ヨハネでん」とは読めないで、「やっかんでん」と読んでいたそうです。そしてその珍しい題の書物にひかれて、聖書を読み、キリスト教にふれて、洗礼に導かれたそうです。そのような明治の人を――今生きていけば一四〇歳くらいになっているでしょう――キリスト教信仰へと動かした書物、それがこの「約翰傳(やっかんでん)」です。

そのような信仰の事実と考えあわせて、この書物は、私にとつても、実に身近に感じられる本であったのです。ちなみに開巻劈頭を読んでもみましょう。「元始に言霊あり、言霊は神とともにあり、言霊は神なり。この言霊は、はじめに神とともにあり、よろづのもの これにてなれり、なりしものは これにあらで、ひとつとして なりしものはなし。これに生ありし、いのちは 人のひかり なりし。光は暗にてりて、暗はこれを さとらざりし。さて神のつかはれし ヨハネ

紙の写真版などが添付されていて、よりいっそう楽しめる内容となっております。日本キリスト教史を学ぶ者にとつては、必読の書といふべきでしょう。編者がさらに和訳聖書を紹介してくださるのを、心から望んでいます。

(はすみ・かずお||日本キリスト教宣教師)
(A5判・一四〇頁・本体二〇〇円+税・キリスト新聞社)

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

▶神学の基礎知識を網羅



好評発売中!

神学の 小径III

創造信仰と自然科学を讀む! 芳賀力●著
■A5判・440頁・4,500円



▼チャペルアワーで語られた現代を生きるための奨励集!
すてたもんじやない

越川弘英●著
同志社大学チャペルアワー・メッセージ
今、キリストの福音を伝える! 現代人に向けて語られたメッセージの数々。
■四八判・216頁・1,000円

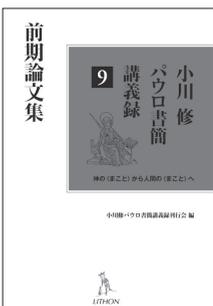
キリスト新聞社
〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL. 03-5579-2432
FAX. 03-5579-2433 (価格に税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

同志社大学で講じたパウロ書簡講義の背後にあった学問的な営みの集積

小川修パウロ書簡講義録刊行会編

小川修パウロ書簡講義録9

前期論文集



鈴木 浩

全一〇巻で完結する予定の『小川修 パウロ書簡講義録』の第九巻、『前期論文集』がリトンから出版された。ローマ書の講義を収めた第一巻から第三巻（既刊）、コリント前書を収めた第四巻と第五巻（既刊）が文字どおり、故小川修先生が同志社大学の大学院で講じたパウロ書簡の講義を忠実にテープ起こした「講義録」であったのに対して、この『前期論文集』と第一〇巻の『後期論文集』は、大学の紀要などで小川先生が発表された論文がまとめられている。

このシリーズの特徴は、ルーテル学院大学神学科と日本ルーテル神学校で小川先生から教えを受けた元学生たちが、刊行会を立ち上げて、講義の録音テープから文書化したもの（全八巻）と、論文集（全二巻）から成っていることである。刊行会を立ち上げた四人のメンバーは、すべてかつて小川先生から教えを受け、卒業後も何かと理屈を付けて先生から教えを受け続けていた日本福音ルーテル教会の牧師たちである。わたしも五年間にわたって学校で先生から教えを受けたが、最初に受けた宗教哲学のクラスでは、ブルトマンの『新約聖書神学』の原書

とキリスト教神学の関係を論じている。

一本だけ「海外だより ドイツ雑感——特にその神学教育について」というドイツの神学教育の場での体験を綴った文章がある。「古典語というのは、ヘブライ・ギリシャ・ラテンの三語ですが、ドイツの場合、この三語につき、州政府の施行する認定試験をパスしなければ、そもそも神学の勉強は始められないシステムです……試験は二次まであって、一次が筆記試験。だいたい日本の英文和訳のようなものといつていいでしょう。しかし二次はなかなか難物で、数人の試験官の居並ぶ前で、与えられた原文を即座にドイツ語に訳さなければなりません」（三二頁）。これをヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語の三言語でパスしなければならないというのだから、すさまじい限りである。小川先生はバルトとブルトマンを深く学び、それをわたしたちは教室で先生から学んだのだが、先生の指摘の鋭敏さには繰り返し驚かされた記憶がある。ブルトマンの『新約聖書神学』がテキストの宗教哲学がある前日の晩は、ドイツ語のテキスト

がテキストであった。同時に開講されていた井上良雄先生のドイツ語原典講読のクラスでは、バルトの『教会教義学』がテキストだったから、期せずしてブルトマンとバルトという二〇世紀を代表する神学者の名著を二人の先生のご指導で、原書で読むという幸いを得た。

この第九巻は、『前期論文集』という書名のように、一九六八年から一九八八年（小川先生二八歳から四八歳）までに執筆された二六本の論文が収められているが、大部分はバルトとブルトマンを論じた論文である。「カールバルト『ローマ書』研究」という副題が付された論文が四本、「バルト・ブルトマン論争」という表題の論文が二本、以下、『教会教義学』Ⅲ（二）におけるキリスト論の問題、「ブルトマンのパウロ理解」「バルト神学における二つの前提……『アンセルムス書』の問題」「滝沢克己におけるバルト理解の原点」と続く。

また、ドイツ語による論文は、『*Entmythologisierung und Koan-Zen, Vorverständnis und Kerygma, Kerygma und Koan, Deutschunterricht in Japan*』の四本で、二本が禅の公案

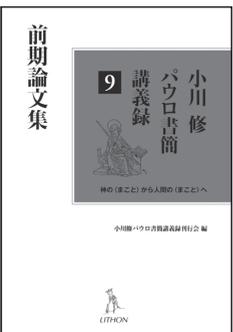
に懸命に取り組んで苦労したことも、今は懐かしい。バルトの延々と続く文とは対照的に、切れ味鋭いブルトマンの文章に感じた記憶もある。

刊行会の四人は卒業後も先生に師事して学びを継続していた牧師たちである。その結果として刊行会が立ち上がり、この第九巻も出版されたわけである。この書評を準備している間にも第五巻の『コリント前書講義Ⅱ』が出版された。ほぼ予定通りの出版が続いている。すでに六巻が既刊となり、残るは、『コリント後書講義』、『ガラテヤ書講義』のⅠとⅡ、『後期論文集』の四巻である。

友人だから「甘い」と言われるかもしれないが、小川修という希有な信徒神学者の業績をこのような形で残した刊行会の働きは真に画期的であった。彼らの決断とその後の絶えざる作業がなければ、この宝物も埋もれたままだっただろうからである。（すずき・ひろしルーテル学院大学ルター研究所所長）
（A5判・三五〇頁・本体三〇〇円＋税・リトン）



新刊



小川修パウロ書簡講義録9 前期論文集

小川修パウロ書簡講義録刊行会編
●A5判上製三五〇頁●定価三二四〇円

本シリーズは、小川修先生が二〇〇七年四月から二〇一〇年月に亘り、同志社大学神学部大学院で行った「パウロ書簡」の講義録である。本巻はその基となる著者の論攷（一九六八年から一九八八年までの二二年間）の二六編を「前期論文集」として収録した。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

初心者向けに信仰生活の姿勢を示す！
小高 毅著

霊性神学入門



阿部仲麻呂

謹厳なる身体的犠牲の努力から全幅の信頼に満ちた委ねの軽やかさへと成熟する共同体の姿勢。二千年間にわたってキリストの福音を引き継いで生きるキリスト者の信仰生活の軌跡は、ローマ・カトリック教会における「霊性」理解を参照するとき、に明確になる。そのことを、本書を通して著者が如実に示す。

とくに第二ヴァティカン公会議以前の厳しい規律と模範的で犠牲的な禁欲姿勢を堅持する「修徳・修行」観が公会議以降の「霊性」理解へと洗練されてゆく際に、聖書の主体的な熟読と黙想が深められ、すべてのキリスト者の聖性の共同体的な涵養の重要性が再確認された。神と親しく生きる道（聖性）は特殊な修行を積んだ者によって独占されるべきではなく、むしろ各自の生活の現場で丁寧に生きることを通して実現してゆく。しかし、もちろん厳格な修行の意味が失われたわけではない。むしろ、新たな表現の仕方が認められたのである。

他ならぬ著者自身が第二ヴァティカン公会議以前から公会議以降の転換期を身をもって生き抜いて今日に至っている。経験に裏打ちされた教会共同体の信仰生活態度の変化への感慨が

づられていることが本書の最大の魅力である。わざわざ「入門」と銘打つように、本書は、あくまでも初心者向けにローマ・カトリック教会の信仰生活の姿勢を解説する色調を帯びる。それゆえ各項目の本文は簡潔明瞭な筆致を保ち、敢えて専門的な記述を意図的に採らない。そして、重要な霊性の大家の言述を直に引用して、余計な解説を一切加えない。それらの点について、評者は一瞬だけ、物足りなさや不満をいだいた次第である。

しかし、よくよく考えてみれば、聖書学の素養という土台のうえに立脚する教父学や教義神学の専門的学識に支えられて半世紀近くの歳月を神学生教育に徹してきた著者が、安易な記述の仕方に決して平気でいられるはずがないということもまた容易に察しがつく。神学の大御所が著書を執筆するにあたって、本当は「層詳しい記述を目指したかったはずだ」と推測されるからである。

しかも、「霊性神学」とは、絶えず全身全霊で神と交流すべく努める体当たりの生き方を伴う真実探究の道行きなのである

から、術学的な長文の解説で読者を煙に巻くのととは真逆の書き方をするのがふさわしい。各時代の霊性の大家の日記や書簡からの言葉を直に引用しつつ、敢えて手を加えないで読者に味わわせつつ祈りのうちに体感させる手法を著者は目指したのであるまいか。敬虔な黙想を伴う祈りの体感的な「しじま」を生み出す手段として本書を靴に忍ばせておくことで、日々の通勤のひとつとが霊的要素を帯びてくる。

本書は三部構成で成り立つ。つまり、「第一部 修徳・修行論の形成」と「第二部 修徳・修行論から霊性の神学へ」と「第三部 キリスト教的霊性」という三つの部分が連続しており、全体として第二ヴァティカン公会議前後のキリスト者の生き方の転換を冷静に眺めて評価する意図に貫かれている。その際に、単に現代の転換に焦点を当てるとどまらず、古代の教父オリゲネスから始まって現代の教皇ヨハネ・パウロ二世による『奉獻生活』に至る信仰生活の要点が順序よく整理され、万事が歴

史的に意味をもつ有機体として提示される。

第一部は四章構成である（第一章 完徳への旅路」「第二章 霊的婚姻」「第三章 イエスの生涯の黙想・模倣」「第四章 聖人伝）。修行を積み重ねつつ謹厳に生きる信仰者の姿があぶり出される。第二部も四章構成である（第一章 第二ヴァティカン公会議前後の信仰生活」「第二章 第二ヴァティカン公会議「第三章 現代思潮からの影響」「第四章 霊性とは何か）。伸びやかに自発性を発揮しながら前進する信仰者の可能性が述べられる。第三部は二章構成である（第一章 神学の新しい展開」「第二章 キリスト教的霊性）。キリストに集中しつつ、三位一体論を豊かに展開し、隣に寄り添う神の慈愛としての恩恵の確認をする現代の教会共同体の方向性が読者の心を力強く導く。

（あべ・なままる 日本カトリック神学会理事）
（四六判・二二〇頁・本体三二〇〇円＋税・教文館）



キリスト教書総目録 2016年版

バツハとマザー・テレサ 巻頭エッセイ 徳善義和氏 片柳弘史氏

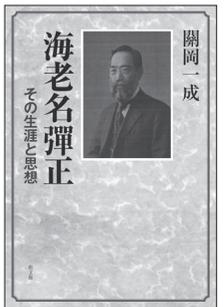
内容 総記・年鑑・辞事典 図説・年表／全集（著作集）叢書・講座／聖書／聖書学／神学／宗教学 思想・倫理／伝記／ライタシオン／信仰・入門書 人生論 説教集／文学小説 評論／エッセイ 詩劇／音楽 美術 建築 教育 保育 心理 社会福祉 児童 絵本 讃美歌 式文／DVD CD カセット レデオ／キリスト教関連雑誌・新聞 書名索引／著者索引／掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送料250円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
事務局 〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

事実在即した海老名の実像に迫る！
關岡一成著

海老名弾正 その生涯と思想



山口陽一

満を持して書き下ろされた本書は、本文五六四頁の大著であり、その四分の三で海老名の「生涯」を丹念に描き、残り四分の一でその特異な「思想」を二項目に分けて考察している。

關岡は、海老名に著作集や全集がないゆえに「論じられている海老名論が事実在即したものかどうか判断されないまま、どんどん定着している」（四頁）と指摘する。確かに三位一体や原罪の否定、神の子の意識、国家主義者など、定着した海老名のイメージがある。關岡は、吉馴明子が『海老名弾正の政治思想』（一九八二年）で試みたような、内村鑑三や植村正久との比較において海老名の神学の特徴を浮かび上がらせるという方法を取らず、ありのままの海老名に迫ろうとする。

海老名の伝記として渡瀬常吉『海老名弾正先生』（一九三八年）は欠かせない。關岡は渡瀬本の原資料となった海老名自身の自伝や回想録により、その生涯を浮かび上がらせる。第一章「幼少時代」のデイトールはその賜物である。第二章「熊本洋学校時代」ではジェーンズが長崎のヘンリー・スタウトとの関係で聖書研究会を始めたという推定が興味深く、第三章

「入信」では海老名の「主神主義」への明確な「新生」と奉教趣意書前後の熱気、一八歳の海老名の信仰が初々しい。第四章「宣教師のキリスト教へ」では「第二の回心」としての「赤子の自覚」から、安中・前橋・東京・熊本での伝道が続く。この間、一八八二年八月二七日付の婚約者の美屋宛て書簡により喜三郎から弾正への改名が明らかになる。第五章「宣教師からの独立」は日本基督教伝道会社社長から神戸教会時代を扱う。海老名は十年來抱き続けた疑いから、独自の自由主義神学を確立する。第六章「東京進出と植村正久との神学論争」、第七章「最盛期の活動」は、一九〇二年に福音同盟会から排除された海老名の最盛期。本郷教会は十数人から始まって一九〇五、六年には五、六百の会衆を集め、福音同盟会にも復帰する。海老名は「人道」の見地から日露戦争を肯定、社会問題を正面から扱う本郷教会には愛国青年やキリスト教社会主義者が押し寄せた。ところが社会主義がキリスト教から分離し、海老名が国際主義に重点を置くようになると会衆は半減する。一九〇八年、エジンバラの万国会衆教会大会に参加した外遊は、第八章「衰退期」

に置かれ、従来の伝記とは違う扱いである。第九章「デモクラシーの諸相、同志社総長時代」、第一〇章「新日本精神（晩年の思想）」は従来の伝記を凌駕するが、評は次の「思想」で述べる。

土肥昭夫「海老名弾正の神学思想」（熊本バンドの研究）一九六五年）は神論とキリスト論を中心に海老名の神学を論じたが、關岡は一二項目でその全体像に迫る。關岡は、海老名のキリスト教受容の最大特色は神を超越、内在、遍在していることと観るが、まず「正統的・福音主義キリスト教」を論じて海老名の「神観」、「キリスト論」、「イエスを人とする聖書的根拠」を際立たせている。「人間観・罪悪観」では人間を善とする儒教に加えてツウイングリの影響に着目し、罪と十字架の贖罪ではなく「新生」による「神の像」良心に注目する。「海老名とユニテリアン」の異同、「神の国」の構想に次いで、「天皇制の問題」と「伝統思想（武士道・儒教・神道）」では、「天之御

中主神」宗教」がキリスト教のゴッドに発展することを期待し、人間である天皇は「天照大神」国民道徳」と区別されることが非常に重要とする。「朝鮮同化問題」は、国家主義が神の国と結びつけられた如実な問題点として論じられる。關岡は海老名の神学を「人格完成の神学」と観ており、「海老名と吉野作造」をつなぐのも海老名の近代主義と人格主義であると洞察する。私は海老名ではなく弟子の柏木義円に共感するが、ある日、多磨霊園で偶々海老名家墓所を見つけ、私の曾祖父が前橋で海老名弾正から受洗したことを覚え図らずも感謝の念が湧いた。今、この本により海老名の実像と課題が立ち現れた。海老名に学び彼を超えるところに日本におけるキリスト教の地平が拓かれるだろう。

（やまぐち・よういち＝東京基督教大学教授）
（A5判・五七四頁・本体六〇〇円＋税・教文館）



大崎節郎著作集

第五卷 カールバルト関連（全7巻）

大崎節郎
Setsuro Osaki



バルトがもたらした 神学への影響

初期バルトの神学、ボンヘッファーとのかかわりと影響、そして日本人神学者への影響を論じる。さらに改革派教会における信仰告白、教会論、聖餐、倫理学を扱った論文と講演を取録。

菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価【本体7,000＋税】円
ISBN978-4-86325-086-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

ルターの義認論はどのように発展したのか？

A・E・マクグラス著

鈴木 浩訳

ルターの十字架の神学 マルティン・ルターの神学的突破



加藤喜之

宗教改革の五〇〇周年が来年に迫っている。このようなタイミングで、マルティン・ルターの神学の変遷を詳細に追った本書が翻訳されたのは非常に喜ばしい。

著者のアリストワー・マクグラスは、オックスフォード大学の教授である。これまで彼が扱った主題は多岐にわたり、宗教改革の神学や自然科学と宗教の関係、そして最近ではC・S・ルイスの伝記がある。その著作の多くは日本でも翻訳されてきた。本書はルターの義認論についての博士論文を基にした彼のデビュー作だ。初版は一九八五年に出版されており、その後二〇一一年に改訂された。本書はその第二版の翻訳である。

本書でのマクグラスの目的は、ルターが独自の義認論と十字架の神学にたどりついたプロセスを歴史的に明らかにすることにある。そのために第一部(一―三章)では、中世後期の文脈のなかにルターがおかれ、第二部(四―五章)では、この文脈からの神学的な突破が描かれる。なかでもとくに彼の聖書注解に重点が置かれている。

では中世の文脈とはどのようなものだったのか。最初の二章

で、中世後期の社会やヴィッテンベルクにおける人文主義と唯名論といった背景が丁寧に描かれていく。だが重要なのは、当時の神学者たちが議論していた「いかにして人間は絶対的に聖なる神の前で義とされるのか」という問いだ。この問いにたいして、オッカムのウィリアムやガブリエル・ビールら中世後期の唯名論者たちは、神と人間の契約(pactum)をもって答えている。それは、人間が罪人でありながらも人事を尽くすことによって、たとえその行いが神の前に完全でなくとも神は完全なものとして受け入れるというものだ。

第三章でマクグラスは、ルターも『詩編講義』(一五一三―一五一年)のなかでこのような唯名論の立場をとっていたという。ただしルターはビールのような唯名論者とは違い、行いではなく信仰を重視していた。だがこの考えもアウグスティヌス修道会の霊性の影響とみなすことができ、この時点でのルターはまだ改革につながるような「突破」を提示できていない。

ではどのようにルター神学の転換は起きるのだろうか。第四章でマクグラスは、この転換が詩編講義の最終段階(一五一五

年)で起きたと論じる。それまでルターは神に義と認められるために信仰が不可欠であると論じていたが、この時から信仰さえも人間のものではなく、神から与えられると理解するようになるのだ(二二―三頁)。

このような理解をもとにルターは『ハイデルベルク討論』(二五―二八年)にみられるような「十字架の神学」を展開していった。これが最終章の第五章で論じられる。ルターによると、神によって与えられた信仰が示すものはキリストの十字架であった。十字架を見上げることによって人間は自分の苦しみの中に神が働くことを理解できる。さらにキリストが十字架にかけられることによって、キリストの義が人間の義となる。マクグラスによると、これこそがルターの理解したキリストによって与えられる神の義なのである(二七〇頁)。

本書はマクグラスの著作のなかでもとくに専門的なものであり、訳者の苦勞は相当なものであったはずだ。扱っている主

聖書は一年12回で聖書を読む本 さらさらに物語る

大頭眞一著

※現場レポート追補!



◆大頭眞一牧師が「聖書は物語る」に続けて、「聖書はさらさらに物語る」を刊行しました。この本の特徴は、「聖書に何が記されているか」という知識をていねいに与えてくれるところにあります。……聖書全体を見通しながら、聖書への知識を私たちに提供してくれるのです。再版出来 ●A5判・二二二頁・二二〇〇円十税

聖書は物語る 一年12回で聖書を読む本

正木牧人師・評 (神戸ルーテル神学校校長)
◆本書の読みやすさは聖書を一続きの物語として捕らえ、一貫する世界観を提示していることにある。『本のひろば』評より) 改訂3版出来!
A5判・112頁・1,100円+税

好評既刊の本
渡辺善太著作選 新書判、1,800円+税
①偽善者を出す処—偽善者は教会の必然的現象—
②現実教会の福音的認識、他
③聖書論—聖書正典論 1/1
④聖書論—聖書正典論 2/1
①聖書的説教とは?
②わかって、わからないキリスト教

齋藤孝志著 新書判・各1,000円+税
道・真理・命 全3巻完結!
ヨハネによる福音書に徹して聴く

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

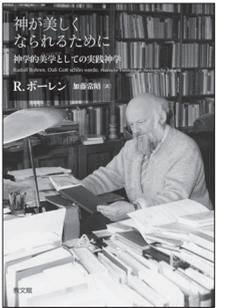
題が難解なこともあり、表現が晦渋になるのはやむをえない。だがときに疑問に思う訳もみられた。たとえば八〇頁の「思想家を指す」は「思想家にとつて」で、二二八、一三〇頁のagogicalは「寓意」ではなく「天上的」だろう。

大きな歴史の転換期においてその触媒となったルター神学の発展を理解することは、これまであまり明らかにされてこなかった中世後期から近世への思想的な移行の一端をみることもできる。そのため宗教改革の五〇〇周年が迫る今、本書がキリスト者や神学徒にとどまらず広く読まれることを期待したい。

(かとう・よしゆき) 東京基督教大学神学部助教 (A5判・三〇八頁・本体四二〇〇円+税・教文館)

ボーレンによる実践神学の体系的基礎論
R・ボーレン 著
加藤常昭訳

神が美しくなられるために 神学的美学としての実践神学



小泉 健

待ちに待った書物が登場した！ 以前から本書のタイトルを知り、邦訳を待ち望んでいた人も多いのではないだろうか。幻の名者をついに日本語で読めるようになった！

原書が一九七五年に刊行された後、ボーレン教授は一九七九年に日本（そして韓国）を初めて訪問している。その際に語られた言葉のうちから、二つの説教と三つの講演を選んで邦訳されたのが『聖霊論的思考と実践』（日本基督教団出版局）の前半部分である。そして同書の後半には、ボーレン教授と五人の日本人神学者たちとの神学的対話が記録されている。その対話の土台となっているのは、神学的美学についてのボーレン教授のテーゼ群であり、さらにその前提となっているのが本書『神が美しくなられるために』であった。この対話を読みながら、本書を読みみたい、そして自分自身もこのような神学的対話に入っていきたいと、焦がれるような思いを抱いたものであった。原書が刊行されてから四十年、『聖霊論的思考と実践』によってその一端を知らされてから三十五年、待ち続けてきた本書の刊行を共に喜びたい。

ボーレン教授の聖霊論的な神学、「神律的相互関係」のことなどについては、わたしたちは前記の『聖霊論的思考と実践』や『説教Ⅰ』（日本基督教団出版局）の第四章などから知ることが出来る。そのことが本書においては第二章「聖霊論の地平における実践神学」で改めて論じられている。

二〇世紀後半以降の実践神学は人間の経験を重視し、経験科学に接近した。あるいは倫理学を土台とするようになった。それによって教会の、さらには社会の具体的な諸課題に対して、いかに「実践的に」関わることを示すことができると考えられた。しかしそこで見失われてしまうのは、神の実践である。実践神学は「神が実践的になられる」ことを考察するものでなければならぬ。ボーレンはこの点において、神の言葉の神学を継承する。しかし同時に、実践神学が教義学に解消されてしまわないためには、人間の実践が位置づけられなければならない。それゆえにボーレンにおいて、実践神学は「聖霊論から始まり、聖霊論を指して」思索されることになる。

このことは決定的な重要な貢献である。経験を重視する実践

神学は、結局過度に倫理化し、非神学化していくことになった。あるいは、シュライアマハーの場合は、具体的な実践とは区別された実践の理論が開示された。そのどちらの道も取らず、生きた教会の「実践」のための学でありつつ、しかも神ご自身の実践を考察する「神学」でもあることは、ほとんどありえないような稀有の道を行くことなのである。

「神が実践的になられる」ことを、さらにボーレンは「神が美しくなられる」と言い換える。

「神はその臨在において、われわれにとって美しいものとなられるのであり、それゆえにわれわれはわれわれ自身との今この時において、神に対して既に美しくなるのである」（一八頁）。

これが本書の基本的なテーゼの一部であり、タイトルの由来

ともなっている言葉である。そして、誤解やつまずきを引き起こしてきたし、引き起こし続けるであろう言葉でもある。しかし「美」とは倫理的なものではなく（それも含むだろうが）、むしろ上述のとおり、倫理的な実践を乗り越えるための概念である。伝統的な概念を用いれば、神の「栄光」であり、人間の「聖化」である。しかも両者は関係している。「美」という概念を用いるのはそのためでもある。神が美しくなられるその美を知覚し、神を喜ぶとき、わたし自身が、神を美しいと知覚し、神をほめたたえる者へと変えられ、つまり美しくなっている。そして神の輝きを照り返すようにして、神と共に行動する。世界と教会を形成（造形）するのである。

本書はボーレン教授の深い理解者である訳者からの日本の教会への貴重な贈り物である。熟読によってその労苦に心えたい。

（こいずみ・けん 東京神学大学准教授）

（A5判・四〇六頁・本体四四〇〇円＋税・教文館）

教会の聖書研究に最適なシリーズ
10回の学びでマルコを読了！

現代聖書注解スタディ版 IBS
Interpretation Bible Studies

リチャード・デーバート
挽地茂男 訳

マルコによる福音書
IBS
第7回 記本

マルコ福音書を読むことはイエスに出会うこと。10の単元でマルコ福音書を読み解き、現代の読者をこの出会いの驚きと喜びへ招く。

A5判・224頁・2808円

シリーズ案内

- ▶10の単元で構成され、個人だけでなくグループの学びにも最適
- ▶釈義の枠にとどまらず、読み物として面白い
- ▶コラムや語句説明、参考文献案内が充実、単元ごとに自分自身にひきつけて考えるための問いを収録

シリーズ好評発売中

創世記 2,484円
C.B.シンクレア 小友 聡 訳

出エジプト記 2,592円
J.D.ニューサム 大串 肇 訳

詩編 2,484円
J.F.D.クリーチ 飯 謙 訳

エレミヤ書 2,376円
R.R.ラハ Jr. 深津容伸 訳

マタイによる福音書 2,592円
A.M.マッケンジー 宮本あかり 訳

ルカによる福音書 2,592円
T.W.ウォーカー 住谷 眞 訳

シリーズ続刊

ヨハネによる福音書
M.A.マツソン 高砂民宣 訳

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

古代イスラエル人の生活を描き出す
上智大学キリスト教文化研究所編

聖書の世界を発掘する 聖書考古学の現在



杉本智俊

本書は、現在イスラエル国テル・レヘシユ遺跡において考古学的発掘調査を行っているメンバーによって記された聖書考古学の現状を紹介する本である。もともとは、二〇一四年度に上智大学キリスト教文化研究所で行われた聖書講座の講演が下敷きとなっている。

内容的には、五章に分けられる。津本英利氏（古代オリエント博物館研究員）は、青銅器時代から鉄器時代への移行に関する最近の研究をイスラエル民族の起源の問題とからめて紹介している。また、テル・レヘシユ遺跡出土の青銅製のファイブラ（ブローチ）や鍍をアッシリア帝国にイスラエルが飲み込まれていく背景を説明するものとして紹介している。小野塚拓造氏（東京国立博物館アソシエイト・フェロー）は、テル・レヘシユ遺跡出土のオリーブの搾油施設を紹介しつつ、南レヴァント地域におけるオリーブ油生産の変遷をたどっている。山吉智久氏（登戸学寮寮長）も、テル・レヘシユ遺跡出土の土製祭儀台を扱い、この種の遺物の機能に関する諸説を概観している。また、香台として用いられた可能性が高いことから、古代イスラ

エルにおける香を用いた祭儀の実態を聖書から論じている。月本昭男氏（上智大学神学部教授）は、テル・レヘシユ遺跡の前に日本の調査隊が発掘したテル・ゼロール遺跡の土壇墓や甕棺墓、テル・レヘシユ遺跡の幼児埋葬の例を紹介し、古代イスラエルの死生観を聖書と銘文資料から論じている。最後は、長谷川修一氏（立教大学准教授）が「文献学と考古学」と題し、それぞれの性格と限界を認識した上で古代イスラエル史研究に取り組む必要性を論じている。

本書のユニークな点は、実際の発掘調査で出てきた遺構や遺物をもとに古代イスラエルの生活の多様な側面を描き出している点である。これまで聖書考古学の入門書というと、考古学的な発見に基づいて古代イスラエルの通史、すなわち政治史や事件史を復元するものが多かった。このようなアプローチは「文化史学派」と呼ばれるが、現在の考古学研究の世界では、十分合理的でないとして批判されることが多い。物質文化の変化は必ずしも民族の変化を意味するとは限らず、たとえば、遺跡が破壊されたとしても、その厳密な年代や誰によって破壊された

のかを知ることは容易ではないからである。結局、その解釈は、聖書本文などの資料から得られた情報によって影響されて主観的になりがちだとされる。そのため、最近では、生活の様々な側面の考古学的データを集積し、統計的（定量的）に分析することで微妙な変化を抽出し、それがあがるレベルに達すると、社会構造そのものにも影響を与えたと考える傾向がある。こうしたアプローチは、プロセス考古学と呼ばれる。本書は、こうした学会の変化をゆるやかに反映したものとなっていると言えるであろう。

しかし、プロセス考古学にも、批判がないわけではない。実際に、細かいデータを定量的に分析できるだけ集めることは可能なのか、そうした複数の要素を組み合わせて文化変化を理解するようなスケールの大きな研究ができるのかという点である。場合によっては、一、二の現象の変化から間を抜かして大きな変化を論じてしまう危険性もある。また、人間の行動はただ数

値化すれば理解できるものではなく、そこに意味を付与する人々がいたのであり、それなしに遺物を理解したことにはならないという批判もある。本書も生活のさまざまな側面を表す遺物を紹介しているが、考古学的に分析できるような基本データ（出土層位やサイズ等）が示されていない。すぐに学説の紹介や聖書に基づいた解釈に飛んでしまう点は、考古学の研究としてみると若干物足りなさが残る。

ただ本書は研究論文集ではなく、一般向けの入門書であり、まさに「聖書考古学の現在」を知るきっかけとなる。また、日本人が行っているイスラエルの調査成果を平易な言葉で知ることができるところでも有意義であろう。

（四六判・一七四頁・本体二〇〇円＋税・リットン）
（すぎもと・ともとし＝慶應義塾大学教授、町田クリスチャンセンター牧師）



新刊



聖書の世界を発掘する 聖書考古学の現在

上智大学
キリスト教文化研究所 編
●四六判並製 本体 2,000円

考古資料を通して垣間見た
旧約聖書の時代

- 津本 英利
- 油滴の地
- 聖書時代のオリーブ油生産
- 小野塚拓造
- 祭儀台からのぞく
- 聖書時代の宗教生活
- 山吉 智久
- 旧約聖書にみる
- 埋葬習慣と他界観
- 月本 昭男
- 文献学と考古学
- 古代イスラエル史の方法
- 長谷川修一

LITHON [リットン]
〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

本屋さんを選んだ お勧めの本

キリスト教書店ハンナ 三上右子

『モグラくん とセミのこくん』

ふくざわゆみこ作



800円+税
福音館書店

絵本は、人が生きていく上で、必要な心の糧を与えてくれるものなのだ、と実感した一冊です。

モグラくんは、土の中をお散歩中にセミのこくんと出会い、一緒に暮らすようになります。

四季の美しい情景の中で、二人の楽しい生活が描かれていきます。そうしたある日、セミのこくんの背中にひびが入り、中からすこし大きくなったセミのこくんが出てきました。そして「一年に一度からをぬいで大きくなり、来年はセミになる」ことをモグラくんに告げます。次の一年を過ごした夏のある日、セミのこくんはもう土の中にいられないことに気づきます。セミのこくんは、モグラくんとい

京都ヨルダン社 田代伸一

『天の国の種』

バーバラ・ブラウン・テイラー著



2,200円+税
キリスト新聞社

書店で働いている私たちの特権は、一番早く本に触れ、最初の読者になれるということです。「二〇一五年キリスト教本屋大賞」第2位になった本書は、ファッション誌を思わせるような斬新な表紙、今までの説教集とは趣を異にする装丁！ 出版社、編集者の意気込みを感じ思わず手に取ってページをめくりました。

副題は「マタイによる福音書を歩いて」。15編からなる説教は、私たちが日々、直面している事柄と聖書を結びつけ、ぐいぐいとイエス・キリストの世界へ引きつけていきます。各編十数ページの読みやすいボリュームで、かつ簡潔。今まで何度も読んできた聖書箇所、新たな光を当て、み言葉が生き生きと迫ってきます。長年私の、み言葉理解の上を覆っていたチリのようなものすべて払いのけ、新たな視点を与えられました。いつも手元に置き、折にふれ繰り返し大切に読みたいイチオシの一冊です。

うかけがえのない友人を置いて外の世界に出て行くことをためらうのですが、大人になったセミが土の中で生きて行くことはできないのです。弱っていくセミのこくんとみても、モグラくんは別れを決意し、セミのこくんを外へ連れ出します。成長していくということは、喜ばしいと同時になんと切ないことかと思わされます。成長に伴う痛みと苦しみを引き受けなくては、人は大人になることはできないという厳しい一面をつきつけられ、涙してしまいます。

しかし、大人になったセミのこくんの力強い鳴き声を、ゆったりとお茶を飲みながら満足げに聞いているモグラくんの顔がなんとも素晴らしい絵で描かれています。別れの悲しさを受け入れたモグラくんのたたずまいは、読み手の切なさを補ってあまりありません。

絵本だからこそ表現できる成長ものがたりをどうぞお楽しみください。

キリスト教書店ハンナ

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL: 03-3269-4490

FAX: 03-3269-4491

E-mail: hanna@hanna-books.com

『すてたもんじゃ ない』

越川弘英著



1,700円+税
キリスト新聞社

同志社大学チャペルアワーで二〇〇五年から二〇一五年に語られた奨励です。二〇〇五年五月の奨励では、JR福知山線脱線事故で同志社の学生を含め、亡くなられ怪我をされた方々に思いを寄せ命の大切さを語り、二〇〇八年六月の奨励では、秋葉原無差別殺傷事件から、容疑者の「現実でも一人、ネットでも一人」という叫びに触れ、人が生きていくのに必要な出会いと、その出会いを育てていくことの大切さを語ります。

大学に入学したけれど不安の中に漂い、自信もなく目標も見い出せない若者たちに「人生すてたもんじゃない！」。自分自身の価値を見出せず、自分を捨て去りたいと思う若者に、「わたしの目にはあなたは価値高く、貴い」と拾い上げ、見捨てず愛して下さる方がいる！ と熱い思いに溢れた奨励満載です。同志社の皆さんだけではもったいない。多くの方にお勧めしたいメッセージ集です。

京都ヨルダン社

〒602-0854 京都市上京区荒神口通河原町東入ル

TEL: 075-211-6675

FAX: 075-211-2834

E-mail: kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp

既刊案内 (2015年12月～2016年1月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
R. ボーレン 著 加藤 常昭 訳	神が美しくなられるために —神学的美学としての実践神学	A 5	406	4,400	教 文 館	12/10
J. F. ハウズ 著 堤 稔子 訳	近代日本の預言者 —内村鑑三 1861-1930	A 5	552	5,000	〃	12/25
小 鳥 誠 志	〔新装版〕朝の道しるべ —聖句断想366日	A 6	400	1,500	〃	12/25
遠 藤 徹	〈尊びの愛〉としてのアガペー	A 5	364	3,300	〃	12/30
富 田 正 樹	キリスト教資料集	B 5	64	1,000	日本キリスト 教団 出版社	12/10
W.ブルックマン 著 中村 信博 訳	現代聖書注解 サムエル記上	A 5	346	6,400	〃	12/15
リチャード S. アスコフ 著 村山 盛華 訳	神学は語る パウロの教会はどう理解されたか	A 5	178	2,400	〃	12/20
エルンスト・トレルチ 著 深井 智朗 訳	近代世界の成立にとっての プロテスタンティズムの意義	四六	252	2,600	新教出版社	12/18
N. T. ライト 著 山口 希生 訳	新約聖書と神の民 上巻 —キリスト教の起源と神の問題1	A 5	609	6,400	〃	12/25
メランヒトン 著 ルター 研究所 訳	アウグスブルク信仰告白	B 6	129	1,000	リ ト ン	12/1
小川修パウロ書簡 講義録刊行会 編	コリント前書講義録Ⅱ —小川修パウロ書簡講義録5	A 5	402	3,000	〃	12/18
芳 賀 力	神学の小径Ⅲ —創造への問い	A 5	440	4,500	キリスト新聞社	12/25
鍵和田 敏子	小説イスラエル	四六	230	1,200	〃	12/25
高田知範 写真	写真集 花の装い —あなたに贈る聖書の言葉	A4変	88	1,800	〃	12/25
大井 満 編	主の栄光を映し出しながら —日本ケズイック・コンベンション説教集2015	四六	155	1,300	ヨ ベ ル	12/25
大崎 節 郎	教義学論文集2 —大崎節郎著作集2	菊判	570	7,800	一麦出版社	12/1
ヨッハン・クレッパ 著 富田恵美子・ドロテア/富田 裕訳 森本二太郎 写真	キ — 祈 り の 工 詩	四六変	64	1,200	教 文 館	1/20
佐藤 全 弘	新渡戸稲造と歩んだ道	四六	354	2,000	〃	1/30
北村慈郎牧師の処分撤 回を求め、ひらかれた 合同教会をつくる会 編	戒規か対話か —聖餐をめぐる日本基督教団への問いかけ 【新教コイノニア31】	A 5	208	1,600	新教出版社	1/31
柳 父 園 近	日本的プロテスタンティズムの政治思想 —無教会における国家と宗教	四六	387	3,800	〃	1/31
R. I. ダイバート 著 挽地 茂男 訳	現代聖書注解スタディ版 マルコによる福音書	A 5	224	2,600	日本キリスト 教団 出版社	1/20

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲2-2 様ヶ丘駅前ビル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo@icom.home.ne.jp/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisutokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs:ds/uev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	903-0207	中壠郡西原町字豊777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2016年4月号

特集 聖書の翻訳

寄稿者 大野恵正、川島貞雄、加藤常昭、前川裕、山浦玄嗣、島先克臣

書評 若松英輔「イエス伝」 山本芳久

好評連載 聖書とわたし（木内みどり）、レヴィ

ナスの時間論（内田樹）、ことはの履歴書（佐藤

優）、南島キリスト教史入門（二色哲）、新約釈義、

第三モテ書（辻学）、宣教学事始め（来住英俊）、
消しゴム点描（望月麻生）他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyopb.com

編集室から

「バックコーラスの歌姫たち」というドキュメンタリー映画を見た。ステージ上、歌手から少し離れたところに位置するバックシンガーにスポットを当てた作品である。原題は、*20Feet From Stardom*（スターから約6メートル）。本作は二〇一四年アカデミー・ドキュメンタリー賞を受賞した。ソウルミュージックのシンガーの多くが教会の聖歌隊出身であることがわかって嬉しかった。映画の中にも教会のシーンがたびたび出てくる。どの礼拝もパワフルで明るく楽しい。ソウルミュージックの源流の一つが、ゴスペル聖歌隊にあることを改めて実感できた。

映画の主題は、バックシンガーがソロ歌手として成功することの難しさにある。ソロに転向した多くのバックシンガーは挫折する。ミック・ジャガーやデヴィッド・ボウイと一緒に歌って

いた人が、今は小さなクラブで歌っている。歌が下手なのではない。実力は折り紙つき。しかしスターまでの、たった20フィート（約6メートル）が超えられない。ソロになるには才能やタイミングのほかに、強い意志がいるのだそうだ。ステイビー・ワンダーは言う。「ソロになるためには、ラクで楽しいところから一歩出ないとね」。周囲に合わせることに慣れてしまった人は、スターになるのが難しいと。

しかし、この映画の監督の視点は異なる。バックコーラスをソロへの登竜門としてではなく、独立したアーティストとして敬意を込めて描いている。映画のラストは、ゴスペル指導者でもある牧師の次のようなメッセージで締めくくられる。「人はだれでも、ハーモナイズする才能を神から与えられている。神からあなたに与えられている才能は何？ ……あなた自身よ」

（寺田）

本のひろば 2016年5月号 予告

本・批評と紹介・富田正樹著『キリスト教資料集』、J・F・ハ
ウズ著『近代日本の預言者』、会衆主義教会研究会編『会衆主
義教会の使命』、ダンテ作『暗い森を抜けて』、『大崎節郎著作
集第1巻』、亀谷美代子著『平野 恒』、芳賀力著『神学の小径
Ⅲ』、W・ウイリモン著『翼をもつ言葉』ほか

東日本大震災に対する聖書学からの応答—今いかに聖書を読むか

3.11以降の世界と聖書

言葉の回復をめぐる

福嶋裕子／大宮 謙／左近 豊

スコット・ヘイフマン 編著



東日本大震災の後に、どう神に祈り、どう聖書を読むか。聖書学者4名の論考と、震災を経験した3名のキリスト者(井形英絵氏、片岡輝美氏、川上直哉氏)の証言を収録し、聖書理解の新しい可能性を示す。

◆A5判 上製・210頁・1,836円

目次

第1章 記憶と証言

序 3.11 以降の証言と聖書／左近 豊

証言／井形英絵、片岡輝美、川上直哉

第2章 創造から新しい創造へ／スコット・ヘイフマン

第3章 混沌の記憶と言葉の回復／左近 豊

第4章 嘆きの記憶と言葉の回復／左近 豊

第5章 絶望の記憶と言葉の回復／大宮 謙

第6章 苦難の記憶と言葉の回復

／スコット・ヘイフマン

第7章 死者の記憶と共同体の回復／福嶋裕子

第8章 技術から見る人間の回復／福嶋裕子

奏楽の参考に、鑑賞用に、
礼拝の前奏や後奏に、用い方はさまざま

CD版 讚美歌21による 礼拝用オルガン曲集《全6巻》

第2巻

諸式・行事暦・教会・終末

飯 靖子／
志村拓生 演奏



使用ストップと演奏のポイントが分かる音楽CDシリーズ
 第5弾。楽譜版に収録の全35曲を曲集の編者が演奏。

◆35曲収録・1,944円

第5回

イエスの福音、をなぜ喜び、とし、
周りにどのように伝えるのか

福音の喜び

人々の中へ、人々と共に

2015年上智大学神学部夏期神学講習会講演集

片山はるひ／高山貞美 編著



◆四六判並製・304頁・3,024円

イエスの福音をなぜ喜び、
びとするのか。聖書や神学、
環境問題や現代日本の抱える
問題などから立体的に探求。

その神の名は？

キリスト教への招待

梅津順一

● 四六判・230頁・本体1,800円

「人生には、逆転がある」

青山学院院長が学生たちに向けて語りかけた奨励・説教19篇を収録。聖書の言葉を紹介し、これからのように生きるべきかを問う。



好評既刊

青山学院宗教センター編

『地の塩、世の光——人物で語るキリスト教入門』

● A5判・232頁・本体1,800円

梅津順一

『ビュリータン牧師バクスター——教会改革と社会形成』

● 四六判・318頁・本体2,600円

新島襄と

明治のキリスト者たち

横浜・築地・熊本・札幌バンドとの交流

本井康博

● A5判・400頁・本体3,800円



ミッション資料や手紙から、新島と各教派の指導者たちの人物像と、知られざる交流を浮き彫りにする。

イエスは何語を話したか？

土岐健治

● 四六判・192頁・本体2,200円

新約聖書時代のパレスチナにおける言語状況を、諸資料から考究した記念碑的著作、待望の新装復刊！ 新約聖書本文批評学に関する最新のエッセイを付論として所収。

砂漠に引きこもった人々 キリスト教聖人伝選集

戸田聡編訳

● A5判・308頁・本体3,500円

アントニオス、マカリオスほか4世紀に砂漠で隠遁生活を送った「最初の修道者たち」の生涯を、ヒエロニムスやアタナシオスらが描いた伝記5作品収録。古代キリスト教の豊かな精神性を汲み取る源泉！

3月の新刊 (価格表示は税抜)
修道院の起源を
解き明かす物語



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇〇六年四月一日発行 (毎月一回一日発行)
本のひろば 第六九九号 二〇〇六年四月号

発行所 〒106-8544 東京都新宿区新小川町九一-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇一五一一六六七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株) 平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三六〇一五六七〇

定価七八円 (税抜七二円) (〒62円)
一年分一三〇〇円 (送料共)